



先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/08/01

「夏枯れ」の膠着状態も想定

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	材料次第では4月高値超えも 予想レンジ: 101.500 ~ 104.500 円	2 - 3
<u>カナダ/円</u>	➡	94円台値固めなるか 予想レンジ: 92.500~96.500円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

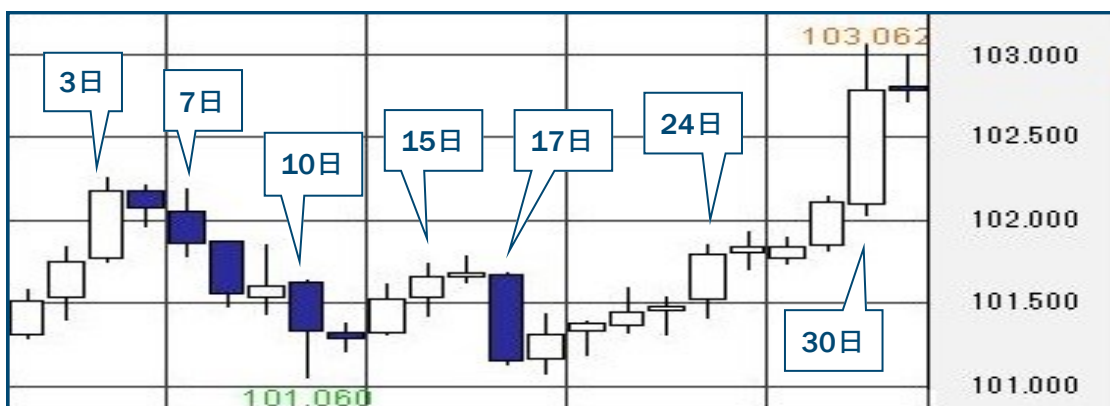
Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ドル/円 7月の推移

USD/JPY

7月のドル/円相場は101.060～103.062円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.4%の上昇(ドル高・円安)となった。ただ、長めのチャートで確認すると、5月以降のみ合い相場の中で収まっている。

月初は米6月雇用統計の好結果などもあって上昇したが、ポルトガルの金融不安や米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長がハト派的な姿勢を改めて示した事、ウクライナ上空でマレーシア航空機が撃墜される事件が起こった事などもあり、円が買い優勢となる場面が散見された。しかし、月末に入り、様々なリスク要因に一服感が出ていたところで米4-6月期国内総生産(GDP)速報値が市場予想を大きく上回った事や、一部、目新しい「タカ派感」が出ていた米連邦公開市場委員会(FOMC)声明を受けてドル高が急速に進行。一気に103.00円台を回復した。



四本値

OPEN	101.320
HIGH	103.062
LOW	101.060
CLOSE	102.787

3日	米6月雇用統計は、失業率が6.1%(市場予想:6.3%)、非農業部門雇用者数は28.8万人増(同:21.5万人増)と市場予想よりも大幅に良好な結果だった事を受け、ドル/円は102.263円まで上昇した。
7日	日銀支店長会議で名古屋支店長が「さらに円安を望む声は聞かれない」「これ以上の円安は燃料などの価格を一段と引き上げかねないとの懸念が強い」と発言。これを受け、ドル/円は下落。NYダウ平均の下げも重石となって、101.788円まで値を下げた。
10日	ポルトガル銀行大手、バンコ・エスピリト・サントの親会社エスピリト・サント・フィナンシャル・グループが経営不安で短期債務の返済を延期した事を受けて金融不安が広がると、金融市場全般的にリスク回避ムードが拡大。米長期金利が低下した。ドル/円はこの中で断続的にストップを巻き込み、101.060円まで下値を切り下げた。
15日	FRBのイエレン議長が議会証言で「労働市場に著しいたるみが残る」「高レベルの緩和政策は引き続き適切」とすると、101.438円まで一時下落。しかし、「労働情勢がFOMCの予想より速く改善し続ければ、利上げは予想より早くなり、ペースも速まるだろう」と続けた事から、急反発。101.746円まで上昇した。
17日	「アムステルダム発クアラルンプール行きのマレーシア航空機が、ウクライナ東部ドネツク州のロシア国境近くで親露派のミサイルによって撃墜された」と報じられた事を受けてリスク回避ムードが強まると、ドル/円は失速。イスラエルがガザ地区への地上侵攻を開始した事も相まって、ドル/円は101.10円台まで値を下げた。
24日	欧州市場に入り、米長期金利が上昇すると、ドル/円もジリジリと上昇。米新規失業保険申請件数が28.4万件と市場予想(30.7万件)よりも強い結果だった事も追い風となり、101.854円まで値を伸ばした。
30日	米4-6月期国内総生産(GDP)速報値が前期比年率+4.0%と予想(+3.0%)を上回った上、前期分も上方修正(-2.9%→-2.1%)された事でドル高が進行。その後、FOMCが政策金利の据え置きと量的緩和規模の100億ドル減額を発表。声明では「インフレ率は幾分、長期的目標に近づいた」「2%を下回るインフレ率が続く可能性は幾分低下した」「失業率は一段と低下したが、広範な労働市場の指標は労働資源の活用不足が著しいことを示唆している」「プロクサー・フィラデルフィア連銀総裁は低金利政策を『資産購入の終了後も相当な期間』維持することが適切になると予測する指針について反対した」などとあった。経済に対する強気な見方とプロクサー・フィラデルフィア連銀総裁の意見などを受けて、発表直後はドル高が進行したが、雇用に対するハト派的な見方から超低金利政策は長期にわたって継続すると看做され、上昇一服後は上げ幅を縮小した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	0.4567%
HIGH	0.5826%
LOW	0.4402%
CLOSE	0.5276%

米10年債利回

OPEN	2.5268%
HIGH	2.6794%
LOW	2.4441%
CLOSE	2.5578%

日経平均

OPEN	15179.64
HIGH	15759.66
LOW	15101.49
CLOSE	15620.77

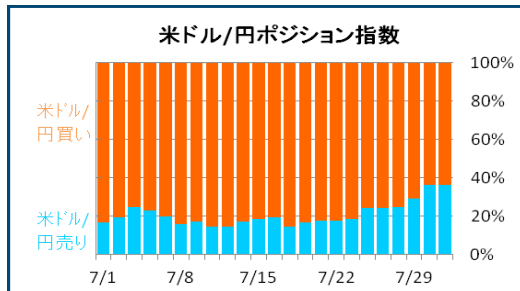
NYダウ平均

OPEN	16828.53
HIGH	17151.56
LOW	16563.30
CLOSE	16563.30

7月のポジション動向

今月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)



- ・米7月雇用統計(1日)
- ・日銀金融政策決定会合(7-8日)
- ・日6月経常・貿易収支(8日)
- ・日4-6月期GDP・一次速報(13日)
- ・米7月小売売上高(13日)
- ・米FOMC議事録(20日)
- ・米4-6月期GDP・改定値(28日)
- ・ジャクソンホールでのイエレン議長講演(21.-23日)
- ・米利上げ時期に関する要人発言
- ・ウクライナ情勢
- ・イスラエル情勢
- ・日本の追加緩和に関する要人発言

今月の見通し

7月下旬のドル/円は、米4-6月期GDP・速報値の好結果やFOMC声明のタカ派的な部分を受けて上昇した。しかし、この時点では依然として5月以降の100円台後半から103円ちょうど前後のレンジ相場内の値動きと言える。この膠着状態から抜け出せるかどうか、目下のところ焦点となろう。好結果への期待が高い米7月雇用統計を無難に通過する事ができ、103.00円前後の頭の重さを払拭できれば、レンジの拡大が見込まれる。ただし、8月は夏季休暇入りする市場参加者が多く、相場は薄くなりがちだ。手掛かり材料が続かなければ上伸力もまた続かないだろう。新たな材料が出てくるまで、再びもみ合いとなる事は覚悟しておくべきと見る。

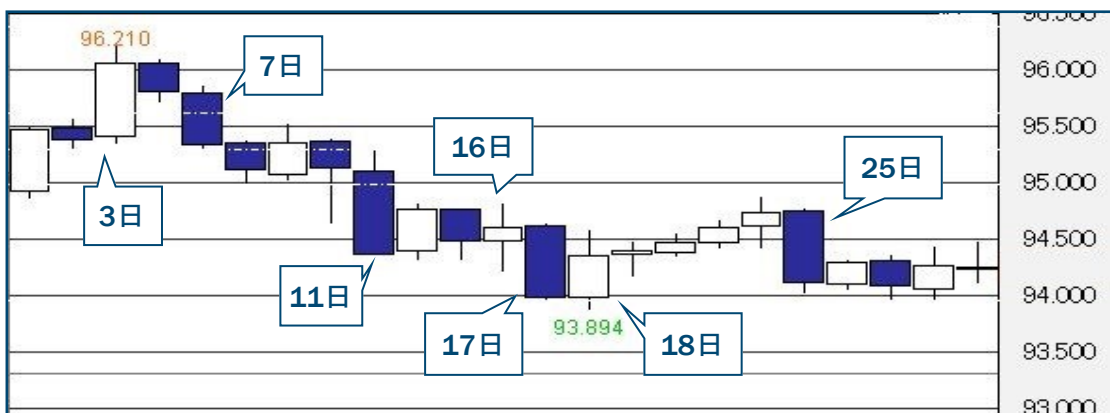
上昇した場合、まずは4月の高値104.126円の高値がターゲットになるとみる。ここを突破する程の勢いがあれば、年初来高値105.440円トライも視野に入ってくる。ただ、材料不足や「早期利上げ期待の後退」、地政学的リスクの台頭などを背景に、ある時点で失速してしまった場合、101円台までの軟化は十分にあり得る。8月のように参加者が少なく、相場が閑散とする中でリスク要因台頭は、特に急激な下げを伴う事もあるので要注意だ。(石川)

(予想レンジ: 101.500~104.500円)

カナダ/円 7月の推移

CAD/JPY

7月のカナダ/円相場は93.894～96.210円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.7%の下落(カナダドル安・円高)となった。上旬は、前月の流れを引き継いで約半年ぶりの高値となる96円台へ上昇する場面もあったが、ウクライナやイスラエルといった地政学上のリスクがくすぶる中、17日には93円台へ反落した。その後、やや盛り返したものの、一時史上最高値を更新して上昇していたNYダウ平均の上値が重くなったため反発力は鈍く、94.258円で7月の取引を終えた。中東地区での混乱をよそに、原油先物価格が下落(ドル高が主因と見られる)した事もカナダ/円の重石となった模様。



四本値

OPEN	94.940
HIGH	96.210
LOW	93.894
CLOSE	94.258

3日	米6月雇用統計が好結果となった直後は、米ドル/カナダドルの上昇(カナダドル安)とドル/円の上昇(円安)に挟まれて乱高下したが、NYダウ平均が史上初めて17000ドルの万台に乗せると、上昇基調が鮮明となり96円台へ上伸した。
7日	加5月住宅許可件数が前月比+13.8%と予想(+2.0%)を大幅に上回ったものの、カナダ/円の反応は限定的であった。しかし、加6月Ivey購買部協会指数が46.9と予想(52.0)を下回るとカナダドル売りが活発化。NYダウ平均が一時17000ドルを割り込んで軟化した事も重石となり、95.30円台まで下落した。
11日	加6月失業率が7.1%、加6月雇用者数ネット変化が0.94万人減と、予想(7.0%、2.00万人増)を下回る弱い雇用統計となった事を受けて94.371円まで急反落した。
16日	カナダ中銀(BOC)が予想通りに政策金利を1.00%に据え置くと同時に発表した声明で、最近のインフレ加速については「一時的なもので持続しない」との見解を示した。これを受けて94.231円まで下落したが、前回の声明にあった「インフレ見通しに対する下方リスクは引き続き重大」とする文言が削除された事がわかると一転してカナダドルを買い戻す動きが強まった。その後、NYダウ平均が史上最高値を更新して上昇する中で94.819円まで上昇した。
17日	「マレーシア航空機がウクライナ東部上空で撃墜された」との報道をきっかけに、リスク回避ムードが広がった。さらに、イスラエル首相府が、イスラエルがガザ地区への地上侵攻を開始した事を明らかにすると、NYダウ平均が17000ドルの万台を割り込むなど、リスク回避の動きに拍車がかかり、カナダ/円は94円台を割り込んだ。
18日	前日の軟調地合を引き継いで、朝方に93.894円の安値を付けたが、加6月消費者物価指数が前年比+2.4%と予想(+2.3%)を上回る伸びを示した事からカナダドル買いが強まった。さらに、オバマ米大統領が、ウクライナ問題を巡り、ロシアに対して追加制裁の用意があるとしながらも「米軍については、いまのところNATOへの派遣以上の役割があるとは見ていない」と発言した事を受けてNYダウ平均が17100ドル台へ反発。リスク・オンの流れに乗って94.50円台へ切り返した。
25日	欧州連合(EU)によるロシアへの制裁強化が見込まれる中、欧州株が下落。また、前日の米国株式市場終了後に発表されたアマゾンの4-6月期決算(前年比23%の増収ながらも1.26億ドルの純損失)を嫌気してNYダウ平均が寄り付きから軟調に推移するなど、リスク回避ムードが高まる中、94.034円まで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

加10年債利回り

OPEN	2.2443%
HIGH	2.3513%
LOW	2.0848%
CLOSE	2.1563%

N Y 原油

OPEN	105.44
HIGH	106.09
LOW	97.60
CLOSE	98.17

NYダウ平均

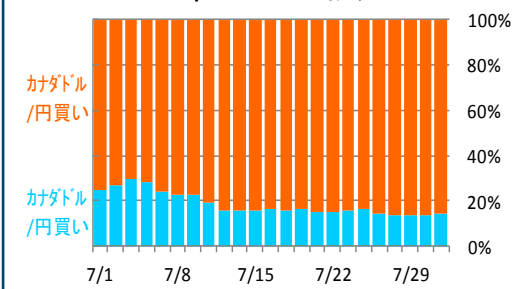
OPEN	16828.53
HIGH	17151.56
LOW	16563.30
CLOSE	16563.30

7月のポジション動向

今月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

カナダ/円ポジション指数



- ・米7月雇用統計(1日)
- ・日銀金融政策決定会合(7~8日)
- ・加7月雇用統計(8日)
- ・加7月住宅着工件数(11日)
- ・日4-6月期GDP・一次速報(13日)
- ・加6月消費者物価指数(22日)
- ・加7月小売売上高(22日)
- ・加第2四半期GDP(29日)
- ・国際商品価格
- ・主要国株価
- ・ウクライナ・イラク情勢

今月の見通し

カナダ/円は7月に何度か93円台に差し込んだが、いずれも93.90円前後で下げ止まった。4月中旬から6月中旬にかけてはこの水準が強力な上値抵抗となっていたため、一旦上抜けた事で下値支持に変化しているようだ。8月1日9時時点で94.20円付近で推移しており、94円台で値固めできるかが当面の焦点であろう。値固めできれば7月高値96.210円の奪回に向けて動き出すと見られる一方、下抜けてしまえば3月安値の90.643円まで下値余地が広がる事になる。

上旬の相場展開のカギを握る材料は米7月雇用統計(1日)と加7月雇用統計(8日)であり、中旬13日に発表される本邦4-6月期GDP・一次速報にも注目だ。消費増税後の落ち込み度合いが大きければ追加緩和への期待が高まる可能性もある。また、下旬はカナダの7月消費者物価指数(22日)に注目したい。前月分は前年比で+2.4%と、BOCのインフレ目標(1~3%)の中央値を上回った。これを受けてBOCの低インフレ警戒姿勢が後退、カナダドル高に繋がる場面があった。また、月間を通して主要国株価と国際商品価格の動向にも目配りが必要だろう。ウクライナやイスラエルなどの地政学上の問題が絡めば、比較的大ぶりの価格変動が起きる可能性があり、投資家のリスク許容度にも影響する事になる。(神田)

(予想レンジ:92.500~96.500円)